

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093100073		
法人名	麻生介護サービス株式会社		
事業所名	アップルハートくつろぎ春日		
所在地	福岡県春日市小倉3丁目71-5		
自己評価作成日	平成31年2月21日	評価結果確定日	令和1年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成31年2月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

お客様に合わせた生活リズムを大切に、毎日が楽しく過ごしてもらいたいと思っています。又、認知症という部分が感じられないように、いままでの生活の延長線上にあると位置づけしています。『出来る事は出来る限り自身で何でも決めて行う』を念頭に、対応しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「くつろぎ春日」は、住宅地の中の陽光あふれる中にある1ユニット型グループホームである。畑や木々を見渡す建物の2階部分にあり、居室からの景色も良く、居室で落ち着いて過ごす事が出来る空間となっており「くつろぎ」の名の通り、入居者にくつろぎの場を提供している。小規模多機能との併設型でイベントなどは合同で行うことが多く、サービス移行して入居に移る方などもある。最近では職員もキャラバンメイトの資格を取り、地域への認知症啓もうの活動にも力をいれている。家族に顔の見えるケアを、とサービスの公開にも取り組み、鍼灸や訪問マッサージの現場を見てもらって、やり方を共有している。母体法人は福岡県内全域で大規模な福祉サービスを展開しており、研修や事業所間での情報共有などにも積極的に取り組んでいる。入居者の自立支援を心がけ、自分で出来ることは極力自分自身で行ってもらえるよう、安全に配慮しながら過度に手を出し過ぎないようにもしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて企業目的・行動規範・安全運転唱和しています。法人全体の事業理念があり、毎日の朝礼と、毎月の定例研修時に唱和している。名刺サイズで全社員にも配布され、日頃からの意識付けを行い、お客様の問題解決を念頭に入れています。	法人で共有する事業理念や行動規範はフロア内に掲示されており、携行タイプのカードサイズのものも全社員に配られている。入社時に新入職員に向けたものと、管理者研修の中で理念について触れる機会があり、内部での伝達も行っている。個人の行動目標も定め振り返りの機会もっている。	事業所独自の理念について、以前から検討課題としてあげているが、企業理念を踏まえて地域性や独自性を取り入れたものも引き続き話されても良いのではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小倉地区自治会の福祉サロンや餅つき、外出行事・地域行事に参加したりと、地域の方々にも施設の認知度は高くなってきている。地域の困り事なども聞けるようになってきています。また長寿会に来ていただき、施設内にて予防体操なども実施。	地域に向けた認知症の啓もう活動にも取り組んでおり、年に7回程度サポーター養成の講師として事業所から3名が活動している。寸劇や講義形式で学校なども訪問し、地域自治会とも良好な関係を築いている。会議室を地域のリコーダークラブに開放し、イベント時に演奏披露もしてもらっている。地域の夏祭りや敬老会などは入居者と一緒に参加している。	自治会、民生委員、長寿会などのつながりは密にされている地域なので、地域の高齢者を支えていくために、協力関係を築いて共に地域を支える活動をしていきたいと考えている。さらに関係を深めていき、地域情報が共有される取り組みに発展していくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	春日市の地域密着事業所が集まり、自治会や小・中学校での認知症サポーター養成講座を実施し、認知症に身近な街づくりの一環として実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を細かく報告し、施設内でどのように生活されているのかを知って頂きたい機会になっています。また、地域の活動も事前に協力依頼ももらえるようになり、地域との距離が縮まってきたかなと感じております。	概ね定例の木曜午後に、併設の小規模多機能と合同開催し、会議案内は口頭で全家族に行い、1～2名が参加される。他は市職員、自治会長、民生委員、社協、地域包括などから参加している。入居者の状況報告に力を入れており、地域情報などを参加者から頂くこともある。議事録は事務所内にファイリングしている。	家族参加を増やすために、土日開催やイベントとの同日開催を検討している。実現に期待したい。また、議事録の内容についても参加されていない家族などに郵送報告などを行うことで周知を図っていても良いのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問などには迅速に対応に対応しています。また、市役所の方々も相談しやすく、演奏会やイベントなども情報提供して頂き、外出する機会が多くなってきています。	運営推進会議には毎回参加してもらっており、毎月訪問して実績報告もしている。市内の地域密着事業所部会も毎月あり、そこに市職員も参加されることで交流の場ともなっている。接触する機会も多いため、顔の見える関係で相談しやすい。社協や他事業所とも良好な関係をもって相互協力がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないを原則に行っています。また、スピーチロックやベット柵など拘束しない様に言葉遣いや、ケアの中で優先順位をしっかりと考え、変化にも対応しています。	法人として定めた指針と、内部資料を使用して事業所での内部研修を行っている。今年度から身体拘束廃止委員会を組織し、毎月の会議で振り返っている。ベッド柵やセンサーの使用も検討した上で、拘束につながらないよう、適切な使用に努めている。所内の移動は自由で、玄関施錠もしておらず、職員の見守りで対応している。	年2回の定期的な研修開催について改めて計画的に行われるよう確認をされると良いのではないだろうか。

H31.2自己・外部評価表(くつろぎ春日)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年定例研修で年1回は研修実施しています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年定例研修で年1回は研修実施しています。	グループホームでの利用はないが、併設小規模の方に利用された方がおり、必要時の説明も適宜管理者やケアマネが行っている。社協や外部の関係機関とも連携をとって紹介や相談もしている。研修によって職員も一般的な知識はもっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と解約時に説明行い、納得頂いた上で、署名・捺印頂いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のモニタリング・外部評価時の家族へのアンケート・また玄関先やエレベーターの中にも意見箱を設置しています。介護についてや地域の行事などもアナウンスし、一緒に行ける所などあれば参加して下さいと呼びかけています。スタッフの顔が見える様にスタッフ名簿を入室付近に配置しております。	全家族が月1回以上は面会に訪れており、その際に話を聞く機会を持っている。前回の外部評価アンケートの意見から、スタッフ紹介を掲示するようにして家族にも喜ばれた。意見箱の中に地域行事についての意見を最近頂いていた。法人主体で、無作為抽出した方に対するの満足度調査も毎年定期的になされている。以前は行事案内や報告などをお便りで発行していたが今はされていない。	意見箱やアンケートの要望への回答については、所内の掲示などを活用して公開、共有をすることが望まれる。また、おたよりの発行についても無理のない形で再度取り組みに繋がられるようにも期待したい。家族会の開催についても引き続き検討されてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議を行っています。各担当月を決め、スタッフが主体となって進んで行くように事前に一緒に取り組みをしています。	毎月の会議があり、原則全員参加で行う。担当する入居者の状況報告などを行い、意見もそれぞれの立場から挙げている。職員の意見からおむつ、備品、環境整備などの係分担をきちんと担当を決めて定めるようになり抜けがなくなった。個別面談もあり、日頃も管理者に相談はしやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社は、キャリアパス制度を採用しております。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しましては、性別・年齢は不問です。社会参加や自己実現のお手伝いが出る様に有給休暇制度があります。20代～50代の男女の職員同士、経験を活かし、意見を言い合いながら業務行っている。外部の研修案内もしてもらっているので、希望した研修にも参加出来る様になっています。	男女比は管理者を含め2:8程度であり年齢層もバランスよく配置されている。新入職員研修は法人でカリキュラムが定まっており、外部研修の案内などもあり、勤務として参加も出来る。休憩時間や場所なども分けられ、メリハリのついた勤務がされている。	

H31.2自己・外部評価表(くつろぎ春日)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定例研修・高齢者虐待防止・認知症の特徴実施済み。毎月の定例研修の中で、法人の用意した資料をもとに認知症高齢者の理解や虐待に関して学んでいる。	新入職時にはモラルや人権擁護研修を行い、現任者についても倫理やコンプライアンスについての研修を定期的に行っている。内部研修が主体で、資料の読み合わせや管理者が講師になったもので学習している。	時には外部研修への参加も行うことで、新しい知識や視点が得られるような取り組みも検討されてはどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県GH協議会に加入し研修などに参加しております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県GH協議会に加入し研修などに参加しております。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学を行って頂きアセスメント、居宅計画書に本人の意向を聞き出し反映させております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を行って頂きアセスメント、居宅計画書に本人の意向を聞き出し反映させております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を行って頂きアセスメント、居宅計画書に本人の意向を聞き出し反映させております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来る事を見つけ、出来る事を一緒に行っています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には電話、面会時近況報告を行いながら、家族にも支援の協力を行って頂いています。病院受診などは家族と一緒に対応しています。		

H31.2自己・外部評価表(くつろぎ春日)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の一部を開放し、地域の方がされているリコーダーの練習や地域の話し合いなど活用して頂いています。家族や地域の方など、施設で行うイベントの時に声かけし、開かれた空間作りをしています。	家族の面会機会は多く、外出などについても家族の力を借りて一時帰宅や外食、買い物などもされている。孫の結婚式に参列したいとの要望があり、時間をかけて機能改善に取り組んで当日の送迎や見守りまで支援を行った。家族以外の来訪もあり、自由に受け入れている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、関係作りをしていました。会話が増えたことで見たことあると認識は取れています。スタッフとも馴染みの関係が構築されてきており、このまま信頼関係が大きくなれば、不安事も少しは軽減するのではと思います。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、今後何かあればいつでも相談が出来る。支援させて頂ける事を説明しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状況に応じて24時間シートを使用しています。本人の行動や本人の意思を把握することに努めています。	入居者の状況によって24時間シートを活用し、詳細の状態を把握するようにしている。家族以外に来訪の知人などの話からも本人の情報を補完する。アセスメントは基本的にはケアマネが行い、担当職員からも情報を聞き取り、半年程度での見直しもしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや担当者会議を通して情報の共有を行っています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人を把握出来る様に日々の記録、申し送りを行っています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の様子と照らし合わせながら行っている。イベントなどを計画的に行い、家族に伝達して参加出来る環境作りを作っていきたいと思っています。	ケアプラン作成は主にケアマネが行い、モニタリングは入居者ごとの担当職員が作成する。プラン目標ごとの実施チェックはチェックシートによって毎日記録し、プラン内容の共有もなされている。プラン見直しの際に担当者会議を開催し、家族の参加や医師からの情報照会も行っている。	

H31.2自己・外部評価表(くつろぎ春日)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様事に個別に支援記録を記入し職員間で、情報を共有しながら介護計画の見直しを行っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様やご家族の連絡や状況にて急なサービスの追加に対応しております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、地域包括自治会と連携を行い、必要に応じて連絡、相談を行っております。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の判断にお任せしています。往診のドクターとの提携もしていますので、アナウンスはしていますが、馴染みの関係を大切にしたいと考えています。また、かかりつけ医に受診される時は、同行させて貰い、日々の様子も伝達出来る様にしています。	希望があれば元々のかかりつけ医も継続でき、通院は家族に支援してもらっている。半数程度は提携医による訪問診療を受けている。家族が通院介助した際は情報をもらい、共有している。法人系列の訪看とも連携し、毎週の医療連携体制をとっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行えています。主治医や訪問看護などと相談しながら、利用者様の状況をしっかりと把握出来る様に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はしっかりと現状の情報提供を行っています。また退院後はカンファレンスにて現状の把握と今後の対応も含めて協議したうえでを行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関・家族、施設と一緒に確認しながら終末期に向けた取り組みをしてきました。先行き不透明な中で、色んな状況を検討し、人員の配置を増やしたり、医療へのスムーズな報・連・相を徹底して行っています。	開設当初から看取り指針を定めており、直近でも3人の方を看取った。家族とも協力して対応し、職員にも良い経験になり、家族にも喜ばれた。看取りについての研修もあり、対応時には訪看からケースについての事例検討を指導してもらった事もある。	外部研修に管理者等が参加した際には、資料回覧や伝達研修を行って、事業所全体で共有する取り組みをしても良いのではないだろうか。

H31.2自己・外部評価表(くつろぎ春日)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例研修や、救急対応が出来る様に外部研修もスタッフに促し、状況に合わせた動きを検討しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は定期的に行っているが、地域の消防訓練に管理者のみ参加実施。今年は夜間想定で、スタッフ個々での動き方・誘導の仕方を検討した。	年2回防災訓練を実施し、うち1回は消防にも立ち会ってもらっている。夜間想定訓練も今回初めて実施し、実際の避難状況や時間などについての認識を深めた。地域開催の訓練実施時には管理者が参加している。事業所の訓練時に地域に参加のアナウンスもしているが参加には至っていない。AED設置もあり救命訓練も行っている。水や食料品などの備蓄もされている。	地域の方に防災訓練への参加を促すために、運営推進会議との同日開催なども検討されてはどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に合わせた声かけや一人一人の人格を尊重し、丁寧な言葉がけをするよう入社時に研修を行っている。プライバシーの保護を行う為に排泄や入浴時にはカーテン等を利用しています。共有スペースでは、トイレやお風呂場などはプライバシー保護を行っています。	入職時や、定例研修の中で接遇、マナーについても取り上げて意識づけを行っている。入居者に合った呼びかけや声掛けもするが、職員に気になる言葉遣いなどあった際にはその都度注意もしている。居室も基本的には戸を閉めプライバシーにも配慮する。写真利用も含め事前に書面で同意を頂くようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操等は、体調を見ながら参加してほしい。レクリエーションの参加は、ご本人様の意見を尊重している。また、何でも言える環境作りを心がける。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分とは言えないが、食事の時間をずらしたり庭や近隣の散歩には対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望に応じて月1回の訪問理美容を依頼している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調に無理がない程度に配膳、下膳、テーブル拭きのお手伝いして頂いております。食事作りのお手伝いもしてもらい、洗濯なども生活に纏わる物には助けてもらっています。	毎日三食とも、調理済み食材の配達があり、簡易調理のみを事業所で行っている。月1回程度はおやつレクや、行事の際などに調理を皆で行うこともあり、時には家庭菜園での収穫物も活用している。感想や食べたい物の希望などは口頭で聞き取る。お弁当を作って外で食べたり、外食レクをすることもある。	

H31.2自己・外部評価表(くつろぎ春日)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約時に食治い制限の有無を確認し、管理栄養士に適正量を相談しております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず歯磨きを行って頂き、十分ではない方は、職員が口腔ケアを行っております。又、希望により訪問歯科診療を利用し口腔内の健康維持に努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録に残り、定期的な声かけや介助を行い、自分で出来ない所も支援を行っています。排泄のサイクルをしっかりと認識し、誘導しています。	当初から排泄チェックがあり、毎日全員分の24時間の排泄状況を管理している。便秘の期間についても記録に残すことで処置漏れがないようにも申し送っている。状況に応じた下着を用い、日中は極力トイレでの排泄を心がけている。適切なケアの提案は申し送りや会議などで担当職員を通して皆で共有し改善につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に摂って貰える様に促しています。便秘気味のお客様には)運動もしてもらう様に、声かけし予防に繋げている。日々の記録により処方薬である下剤の服薬も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	契約時に本人やご家族に以前の入浴の習慣や今後の希望など伺っています。基本的には入浴日を決めていますが、状況に応じて変更も行っています。	ユニットバスで、片側介助が出来る位置に浴槽が置かれ、移乗などはシャワーキャリーを使いながら行っている。基本的には週2～3回の入浴で午前から夕前にかけて実施する。希望すれば入浴日以外の対応もしている。拒まれた際にも無理強いせず、入居者に合わせた提案や対応をしながら勧めている。健康管理の場としても役立て、異変が認められた際は看護師などにもつなげている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やお客様に合わせてそれぞれの就寝時間の声かけを行っています。処方された眠剤の服薬時間も医師に相談しながらお客様によって変えています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更がある場合は、薬剤師と情報共有し、間違いがない様に努める。服薬の前にも二重に確認をし誤薬防止に努める。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日のお客様に状態などに応じ、ご本人様の意見を取り入れながら、職員が楽しめる様に工夫して支援している。また、お客様の趣味等を把握し、個々の対応も行っている。		



H31.2自己・外部評価表(くつろぎ春日)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望をしっかりと伺い、近場から遠方まで、思い出や行きたい場所などに行っています。外出を目標に個別の運動などで日々の生活に活気が出ればと思います。	事業所全体での外出行事としては近場での花見や公園などに行くことがある。日頃は個別に散歩に行ったり、買い物に行ったりと気候のいい時季には外出を楽しんでいる。車いすの方は出先で外気に触れたり、外での日光浴を行ったりをしている。家族の手を借りて個別に外出支援される方も多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時や買い物等ご利用者様からご希望があれば、出来るだけ実現出来るようにお手伝いして行きます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、電話機をお貸しして番号と一緒に確認してご利用頂いています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの位置やテーブルなどもたまに変更しています。なかなか外に出る機会も多くないので、外が見えるように配慮しています。また、好きな所で過ごしてもらえる様に、室温とフロアの温度も一定に保っています。	建物の2Fに位置しホールを中心に短い廊下沿いに居室が配置されている。床材はライトブラウンのフローリング調マットで、家具も明るい色調のものが置かれている。周囲も開けているため採光も良くリビングで過ごす方も多い。季節の飾りつけを1～2ヶ月程度で入居者と一緒に作成し、調査時はバルーンを意識した可愛い飾り付けがされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様に合わせて、空間作りを提供しています。時間帯で、自分の時間を過ごしたいと思える様に本を置いたり、DVDを設置したりと色々な事に興味がでるような空間作りを目指しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなように 使用して頂いています。ですが、危険性を感じる物や、不穏となる原因の物に対しては、家族と話し合い、外す事もありますが、基本的にはその方の以前のくらしの再現に繋げ安定して暮らしていけるように配慮しています。	居室の表札にも季節の飾りつけを行い、入居にも楽しみと華やぎを感じてもらっている。電動介護ベッドが備え付けられており、ソファやテーブル、テレビなどの持ち込みも自由にできる。基本は洋間だが希望があれば畳敷きにして布団で休むこともできる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のニーズと残有能力を理解し、出入口掲示や歩行運動が出来やすいように矢印を廊下に引いている。		